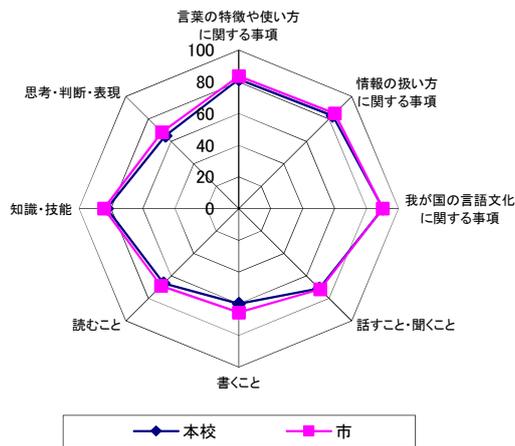


# 宇都宮市立雀宮中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	81.6	83.6	80.3
	情報の扱いに関する事項	83.0	85.0	78.9
	我が国の言語文化に関する事項	90.3	90.2	84.2
	話すこと・聞くこと	71.3	72.1	67.8
	書くこと	60.1	65.5	51.8
観点別	読むこと	66.7	68.9	57.8
	知識・技能	82.6	84.4	80.5
	思考・判断・表現	65.0	68.2	57.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

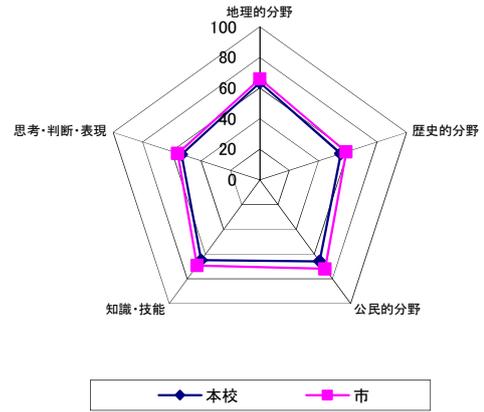
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率81.6%であり市の平均を2ポイント下回った。</li> <li>○「第3学年までに学習した漢字を正しく読んでいる。」に関する設問で、各問いの正答率が0.3から1.3ポイント市の平均から上回っている。</li> <li>●文法・語句に関する事項において「類義語について理解している。」に関する問題で、正答率37.0%であり市の平均から7.7ポイントと大きく下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第3学年までの漢字の読みに関しては基礎的な知識の定着が見られる。この傾向を維持するため、継続して反復練習を行うとともに、文章の中での運用力を高める指導へとつなげていく。</li> <li>●語彙の広がりや言葉の使い分けに課題が見られるので、単語を単体で覚えるだけでなく、類義語・対義語を関連付けて整理させるワークシート等を活用し、重点的に指導する。</li> </ul>
情報の扱いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は83.0%であり市の平均を2ポイント下回った。</li> <li>●紹介する文章を書く事項において情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使っている。」ことを問う設問で、正答率が83.0%であり市の平均から2ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●論理的な文章構成力に課題が見られるため、情報を整理する思考ツールや構成メモを活用させ、接続語や指示語を用いて文脈を整える指導を強化する。</li> <li>●読み取った情報を整理し、的確にアウトプットする力を高めるため、授業内で「書く」「話す」活動を日常的に取り入れる。特に、相手や目的に応じて自分の考えを簡潔にまとめる条件作文等の課題に繰り返し取り組ませ、実践的な表現技能の定着を図る。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は90.3%であり市の平均を0.1ポイント上回った。</li> <li>○「現代語訳を手掛かりに古典を読んでいる。」設問において正答率が90.3%であり市より0.1ポイント上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●古文と現代語訳を対照して内容を捉える力が概ね定着しているため、今後は、単に訳を追うだけでなく、古文特有の表現や場面描写を味わえるよう、作品への興味・関心を高める授業展開を工夫する。</li> <li>●読解の基礎となる歴史的仮名遣いや語句の知識をより確実なものにするため、定期的にミニテストを行い、個々の定着度を確認する。そのうえで、現代語訳をヒントに自力で大意をつかむ学習を繰り返し、古文に親しむ態度を育成する。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は71.3%であり市の平均を0.8ポイント下回った。</li> <li>○発表の内容を聞き取る事項で、「自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話している。」ことを問う設問において正答率は59.4%であり市の平均正答率より1.9ポイント上回った。</li> <li>●上記同様の項目において「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。」ことを問う設問では正答率が市の平均正答65.5%であり、市の平均正答率より2.4ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●相手意識を持った伝わる表現に課題が見られるため、聞き取った内容をもとに自分の考えを述べる活動において、効果的な表現技法を意識させる指導を強化する。</li> <li>●聞き取りテストの機会を増やし、要点を正確にメモする力を養うとともに、良いメモの例を具体的に提示する。単に内容を聞き取るだけでなく、話し手の「表現の工夫」にも着目してメモを取らせ、それを自身の「話す」活動へ汎用できるよう、授業や日常生活での実践を促す。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は60.1%であり市の平均を4.4ポイント下回った。</li> <li>●「情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使っている。」設問では、市の平均正答率より2ポイント下回り、他の設問に比べて差は小さくどまった。が、文章を書く事項における「自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している。」設問では、正答率が65.5%であり、市の平均を3.5ポイント下回る結果となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●相手意識を持った表現技能に著しい課題が見られる。また、自分の考えと根拠を明確にした文章を書く力を養うため、段落構成や接続詞の効果的な使い方について、短文作成から長文へと進む段階的な授業展開を工夫し、論理的に構成する基礎力を徹底する。</li> <li>●「伝わる文章」への改善を図るため、書いた文章を仲間同士で読み合い評価し合う時間を設ける。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は66.9%であり市の平均を2.1ポイント下回った。</li> <li>○文学的文章の内容を読み取る事項において、「文章を読んで考えを広げたり深めたりして、自分の意見をもっている。」設問は正答率が63.0%であり、市の平均正答率より0.8ポイント上回った。</li> <li>●上記同様の事項で、「物語の展開の仕方を捉えている。」ことを問う設問は正答率が75.2%であり、市の平均正答率を4.8ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●文章全体の構成や展開を捉える力を養うため、授業内で短時間での要約作業を日常的に行う。作成した要約を生徒同士で読み合い、修正し合う時間を設けることで、どの生徒も要点を落とさずに読み進める力が定着するよう工夫する。</li> <li>●文学的文章では情景描写や心情の変化に着目させ、根拠を持って読む習慣を身に付けさせる。また、説明的な文章等の指導においても接続表現に注意を促し、論理の展開や場面の移り変わりを意識して読むよう支援を徹底する。</li> </ul>

# 宇都宮市立雀宮中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	63.5	66.0	57.8
	歴史的分野	55.2	58.9	51.4
	公民的分野	65.9	72.0	72.2
観点別	知識・技能	64.9	69.3	62.9
	思考・判断・表現	53.4	56.0	49.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。  
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

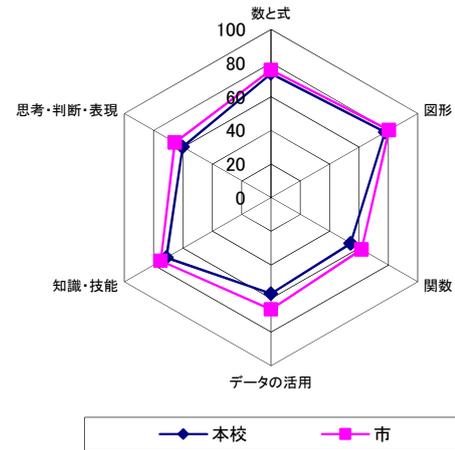
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は63.5%であり、市平均を2.5ポイント下回っている。</li> <li>○世界の姿の「海洋の分布」についてを問う問題の正答率は86.1%で、具体的でイメージしやすい内容については、高い関心と知識の定着が見られた。</li> <li>○「日本の地形の特色について理解をしているのかを問う問題の正答率は77.6%となっている。</li> <li>●「日本の各地の自然環境」に関する設問では、正答率63.0%となり、市平均を9.9ポイント下回った。</li> <li>●「日本の気候」に関する設問の正答率は38.2%に留まり、市平均を4.4ポイントも下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図帳・資料集の日常的な活用による「空間認識」の強化。「世界の姿」の弱点を克服するため、授業の導入で必ず地図帳を開き、位置関係を視覚的に確認することを習慣化する。</li> <li>・白地図を活用した「マイマップ」作成。</li> <li>・ICT機器やプリントを活用し、州の境界や主要な地域区分を自ら書き込ませることで、曖昧な知識を正確なものへと定着させる。</li> <li>・比較による特徴の抽出化。</li> <li>・宇都宮モデルの「じっくり」において、異なる2つの地域の事例を比較させ、「共通する課題」と「独自の工夫」を抽出させることで、多角的な視点を養う。</li> </ul>
歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は55.2%であり、市平均を3.7ポイント下回っている。</li> <li>○「古墳時代の竪穴住居」についての設問の正答率は93.3%を確保しており、市平均よりも1.6ポイント上回っている。</li> <li>○江戸時代の政治体制や経済の仕組みに関する特定の設問では正答率は55.8%であり、市平均より1.3ポイント上回っている。</li> <li>●「世紀の表し方」についての設問の正答率は42.4%で、市平均の52.8%と比較すると10.4ポイント下回っている。</li> <li>●明治時代の「国会解説の勅諭と政党の結成」についての設問の正答率は46.1%で、市平均との差が6.8ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「キーワード指定型」の振り返り。</li> <li>・毎時間の授業の終末(宇都宮モデルの「すっきり」)において、その時間の重要語句を2~3語指定し、それらを使って「なぜこの出来事が起きたのか」「その後どうなったのか」を40字程度でまとめる活動を増やす。</li> <li>・記述の型(フォーマット)の提示。</li> <li>・「～という理由で、○○が△△した」という説明のテンプレートを掲示。</li> <li>・「共通点・相違点」の抽出化。</li> <li>・例えば「律令国家(古代)」と「幕藩体制(近世)」など、異なる時代の統治の仕組みを比較・分類する活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力を高める。</li> </ul>
公民的分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は65.9%であり、市平均を6.1ポイント下回っている。</li> <li>○グローバル化、少子高齢化、情報化など、ニュースや日常生活で触れる機会が多い「現代社会の特色」については、基礎的な知識が定着している。</li> <li>○「フランス人権の主な内容」についての正答率が88.5%で、市平均よりも1.3ポイント上回っている。</li> <li>●「憲法改正の手続き」についての設問の正答率は45.5%で、市平均より19.6ポイント下回っている。</li> <li>●「公共の福祉」についての設問の正答率は50.9%で、市平均よりも14.1ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した「目に見えにくい仕組み」の視覚化。</li> <li>・三権分立や国会の仕組みを、役割分担を整理した図解資料を用いて繰り返し提示し、三権(立法・行政・司法)の相互作用を、矢印やアイコンで可視化した関連図を用いて解説させる。</li> <li>・記述力のスモールステップ指導を取り入れ</li> <li>・記述への抵抗感をなくすため、授業の振り返り(「すっきり」)で「書く型」を定着させる。</li> </ul>

# 宇都宮市立雀宮中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	73.8	76.0	69.0
	図形	77.7	80.5	67.7
	関数	54.3	61.6	55.0
	データの活用	57.1	66.5	56.4
観点別	知識・技能	71.3	75.1	69.4
	思考・判断・表現	60.2	65.6	47.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

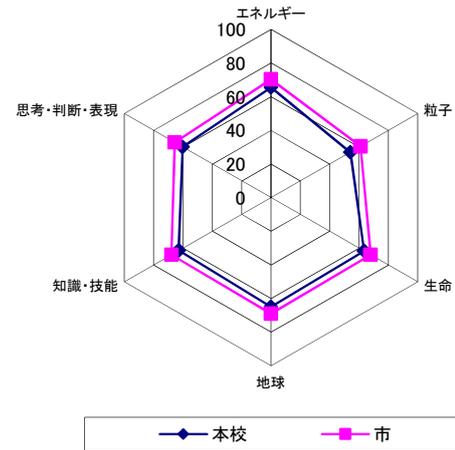
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は73.8%であり市の平均正答率より2.2ポイント下回った。</li> <li>○正負の数の加法についての問いでは、平均正答率が97.6%と市の平均より2.6ポイント高かった。</li> <li>●説明を読み、示された式の別の意味を示す問いでは、平均正答率61.8%と市の平均より8.2ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗法公式や因数分解、根号を含む計算について十分な理解が見られないため、演習問題やAIDリルを活用した反復練習を通して理解を深め、基礎的な知識の定着を図っていく。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は77.7%であり市の平均より2.8ポイント下回った。</li> <li>○平行移動させた三角形について、正しいものを選ぶ問いでは、平均正答率が90.9%と市の平均より0.6ポイント高かった。</li> <li>●おうぎ形の面積を求める問いでは、平均正答率が53.9%と市の平均より7.5ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年時に学習した内容の定着が不十分な生徒が多く見られる。そのため、実力テスト前などの機会を捉えて計画的に復習の時間を確保し、基礎・基本の定着を図る授業を行っていく。</li> </ul>
関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は54.3%であり市の平均より7.3ポイント下回った。</li> <li>○1組のx、yの値から、関数<math>y=ax^2</math>の式を立式する問いでは、平均正答率が70.3%と市の平均より1.9ポイント高かった。</li> <li>●関数<math>y=ax^2</math>におけるyの変域を求める問いでは、平均正答率58.2%と市の平均より14.2ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関数の学習では、条件に合う式を求めたり、グラフや表から式を求めたりする内容が中心となるため、それぞれの特徴を整理しながら、立式までの考え方を確実に定着させていく必要がある。</li> <li>変域を求める問題については、関数の種類によって求め方が異なるため、最大値・最小値に着目させながら、解決の手順を意識した指導を行っていく。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は57.1%であり市の平均より9.4ポイント下回った。</li> <li>●確率を求める問題の平均正答率が、市の平均を下回っている。</li> <li>●四分位範囲を求める問いでは、平均正答率41.8%と市の平均より16.4ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確率の学習においては、表や樹形図を活用することで、すべての場合の数を整理し、適切に求められるようになる。そのため、事象を順を追って整理する力を育成するとともに、表や樹形図を必ず用いて考察・説明する指導を継続していく。</li> <li>代表値や箱ひげ図など、基礎的な知識として定着させる必要のある内容について理解が十分でないため、反復練習を通して確実な定着を図っていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立雀宮中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	65.5	70.3	59.4
	粒子	54.0	61.1	56.4
	生命	63.5	67.9	62.7
	地球	64.9	69.1	65.6
観点別	知識・技能	62.9	67.9	63.8
	思考・判断・表現	60.3	65.7	57.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

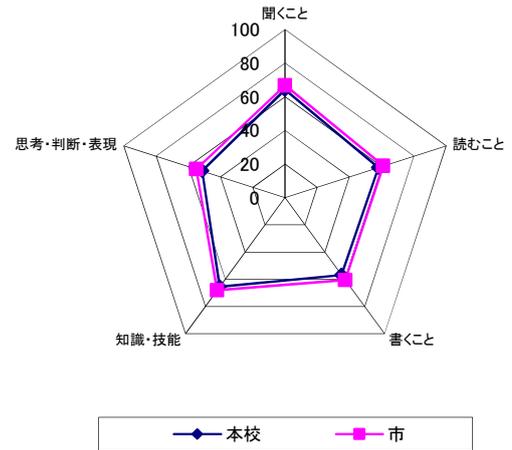
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は65.5%であり市の平均より4.8ポイント下回った。</li> <li>○感光体に光を当てた状態でコピーした時の結果を予想する問いでは、平均正答率が61.8%で市の平均より1.8ポイント上回った。</li> <li>●光の反射の法則に関する問いでは、平均正答率が65.5%で市の平均より8.6ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次に学習した「光」に関する正答率が全体的に低かった。授業中に過去に学習した内容を随時復習したり、AIDリルを家庭学習の課題として何度も繰り返し取り組ませたりすることで、1・2年次の学習内容が定着するようにする。</li> </ul>
粒子	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は54.0%であり市の平均より7.1ポイント下回った。</li> <li>●溶解度のグラフから、再結晶の量を求める問いでは、平均正答率が36.4%で市の平均より11.3ポイント下回った。</li> <li>●塩(えん)に関する問いでは平均正答率が49.1%で市の平均より9.5ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>百分率の計算を苦手としている生徒が多い。小テストの回数を増やし、補習をすることで小数の割り算などの基本的な計算能力を高めていきたい。</li> <li>化学式、化学反応式、電離の式など目に見えない変化をイメージすることが苦手な生徒が多い。モデル図や動画を利用して、生徒がイメージしやすい授業の工夫、改善を図る。</li> </ul>
生命	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は63.5%であり市の平均より4.4ポイント下回った。</li> <li>○外骨格に関する問いでは、平均正答率が74.5%で市の平均より2.6ポイント上回った。</li> <li>●遺伝の法則に関する問いでは、平均正答率が64.2%で市の平均より7.7ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遺伝の法則に関しては実際の実験は難しいので、遺伝子が書かれたカード等を利用して、シミュレートを行い遺伝の法則を理解させるなど、興味、関心を高める授業の工夫を行う。</li> <li>学習した内容が、生活や社会の中でどのように活用されているのか調べたり、話し合ったりする活動を行う。</li> </ul>
地球	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は64.9%であり市の平均より4.2ポイント下回った。</li> <li>○震度の大きさと、震源からの距離との関係に関する問いでは平均正答率が77.6%で市の平均より3.3ポイント上回った。</li> <li>●等圧線に関する問いでは、平均正答率が49.7%と市の平均より16.7ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震に関する問いでは、正答率が全体的に高かった。地球内部の活動については実際の観察が難しいので、ICTを活用して地学、気象についての興味、関心を高める授業を行う。</li> <li>等圧線は、目に見えないのでイメージしづらい。観測された気圧のデータから実際に等圧線を引く実習を丁寧に行い、気圧の差が風を生むことをイメージさせたい。</li> </ul>

# 宇都宮市立雀宮中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	64.2	66.8	61.5
	読むこと	57.9	60.9	55.5
	書くこと	56.8	60.5	50.9
観点別	知識・技能	65.5	68.1	64.1
	思考・判断・表現	51.5	55.0	45.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>・平均正答率は64.2%であり市の平均より2.6ポイント下回った。</p> <p>○対話を聞き、その内容を理解して適切な応答を選ぶ問題では、正答率が67.1%で、市の正答率を0.6ポイント上回っている。</p> <p>●日常的な話題について、必要な情報を聞き取る問題では、正答率が45.1%で、市の正答率を7.5ポイント下回っている。</p>	<p>・会話の流れを「いつ・どこで・だれが・なにを」などを整理し、応答の根拠となる語句や表現に着目しながら聞く活動を継続する。</p> <p>・文字と音を一致させるために、教科書の音読や声で音を認識する機会を増やす。</p>
読むこと	<p>・平均正答率は57.9%であり市の平均より3.0ポイント下回った。</p> <p>○対話文を読み、文構造や文法事項を理解しているかを問う問題では、正答率が57.3%で、市の正答率を1.8ポイント上回っている。</p> <p>●メールを読み、その内容を理解しているかを問う問題では、正答率が48.2%で、市の正答率を8.2ポイント下回っている。</p>	<p>・教科書以外にも、AIDリルや帯活動においてリーディング活動を積極的に取り入れることで、段落ごとのまとめや筆者の意図を汲み取りながら読む力を育む。</p> <p>・単語ごとに区切って理解するだけでなく、意味のまとめごとに理解をする練習を重ねる。</p>
書くこと	<p>・平均正答率は56.8%であり市の平均より3.7ポイント下回った。</p> <p>○対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書く問題では、正答率が31.7%で、市の正答率を1.4ポイント上回っている。</p> <p>●自分の考えや意見を、まとまりのある内容で相手に伝わるように書く問題では、正答率が50.6%で、市の正答率を6.7ポイント下回っている。</p>	<p>・文法指導を単独で終わらせず、学んだ文法が実際のやり取りでどう使うかなど、目的・場面・状況を明確にした活動を取り入れていく。</p> <p>・意見文の構成や論理展開の方法を指導し、根拠に基づいた説得力のある文章を作成する力を育成する。</p>

## 宇都宮市立雀宮中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「宇都宮モデル」の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「宇都宮モデル」の枠を意識した授業形態の指導力向上を図る。</li> <li>・教科等の特質に応じた言語活動を計画的、継続的に取り入れる工夫や指導改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」では、肯定的回答が約78%と高い結果であった。</li> <li>・「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」では肯定的回答が約80%で、市の結果よりやや高かった。</li> </ul>
振り返りの質の向上と学びのつながりを意識させる「ステップアップタイム」の実践による学習習慣及び主体的に学習に取り組む態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の導入において、「ステップアップタイム」を実践し、前時の授業で学習した内容を振り返り、本時の学習につなげたり、学習活動への興味・関心を高めたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校の授業がどの程度分かりますか」で肯定的回答が1年85%、2年77.6%、3年90.3%と高い値であった。</li> <li>・「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」では、1年74.4%、2年68.9%、3年79.4%と市の結果よりやや高かった。</li> </ul>

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・すべての教科において、基礎力・活用力ともに全国の結果よりはやや高いが、県・市の結果より低い。基礎力を向上させながら、活用力もつける必要がある。

①基礎的な知識を身に付けるために、次年度もステップアップタイムの実施を継続するとともに、家庭学習などでデジタル教材を積極的、計画的に活用する。

②ICT機器を用いた学習で肯定割合が高いことから、ICT機器を適切に用いて、思考力・判断力・表現力の育成と知識の活用を図る。

③記述式設問の正答率はやや向上しているため、次年度も、自分の考えを文章で表現することを練習する必要があると考えられる。授業の振り返りを文章で書いたり、すべての教科で「書くこと」「表現すること」などに重点を置いた活動を授業に取り入れ、成果について検証と改善を図る。